2024 年 7 月 7 日

MIGA コラム「新・世界診断」特別寄稿

三極委員会出張報告（6月２２日～２４日ブリュッセル）

武蔵野大学国際総合研究所客員教授

藤 崎 一 郎

6 月 22-24 日ブリュッセルで開催。

１９７３年日米欧三極委員会として発足。今は中国、韓国、インド、比なども参加しアジア米欧になっている。持ち回りで年に総会１回、地域会合１回。故ヘンリー・キッシンジャー博士、ジャンクロード・トリシエ元欧州中央銀行総裁、ジョセフ・ナイ・ハーバード大名誉教授、グラハム・アリソン・ハーバード大名誉教授、米マイケル・チャートフ元国土安全保障庁長官、ジム・スタインバーグ元国務副長官、ジョン・ネグロポンテ元国連大使、NYT デイビッド・サンガー記者らが常連。日本の主な参加者は新浪剛史アジア委員長、塩崎泰久元官房長官、河野太郎大臣、田中伸男元 IEA 事務局長、中尾武彦前 ADB 総裁ら。総勢約４５０人。印象的な議論以下の通り。

１．ウクライナ

●ロシア軍人は明確な戦争目標なく戦わされているので士気が低い。●この戦争でウクライナを敗けさせるわけにはいかず、米国からの新
たな大量支援は大きな影響がある。

●ドローンの役割が増大している。

●この戦争の帰趨はどうあれ数年後にロシアは強力な軍事大国として現れるのでけっして警戒を緩めるべきでない。

●ウクライナが供与された武器を使用してロシア国内への限定的攻撃
を容認することになったが、これにより戦争のエスカレーションは
危惧していない。ウクライナとロシアは２年余の戦争でお互いの越えてはならないレッドラインを把握している。

２．　NATO 米関係

●EU の９８％の国民の安全保障にかかる費用の８割は EU 以外の国が負担してきたが最

Copyright©2024 MIGA. All rights reserved.

近急速に欧州の対応は変わっている。対GDP比２%以上防衛支出しようとするNATOの国は、数年前は７か国に過ぎなかったが今や２３カ国である。日本も大きく変わった。

●米欧間のバーデン・シェアリングについても抽象的な話だけでなく具体的に役割分担を青写真に初めて落としこむ作業が始まっている。

●トランプ政権になっても慌てる状況ではない。

3　ガザ

●米政府が提案し国連安保理で承認された３段階案につき議論された。進捗していないことに懸念の声もあった。

●ハマス撲滅のためには現在のようなアットランダムな攻撃でなく、合理的な方法は北から順に一定地域を遮断して封鎖し、域内のハマスを完全に掃討するやり方であるとの議論もあった。

4．中国

●西側は長い間、中国に対しナイーブ過ぎた。中国はロシアを支援しつつ、西側ともいい関係を持とうとしてきたが、そんな虫のいい話は通らない。彼らはどちらかを選ばなければならない。

●厄介なのは再生エネルギーの原材料の９５%は中国が関わっていることである。

●先進国がグローバルサウスを軽視してきたため中国などがつけこむ可能性がでているのではないかという提起が行われた。中国出席者より習近平主席はグローバルサウスのために一帯一路を展開している、中国はグローバルサウスの仲間であるといった発言をした。その割に途上国債務削減に中国は不熱心ではないかとの指摘にはアフリカからのパネリストが債務削減はいい解決策でないと中国に助け舟を出していた。

Copyright©2024 MIGA. All rights reserved.